

そよかぜ

2018年1月 Vol.24

冬号

病院の理念

私たちは
「ゆるぎない信頼、心からの満足」
をしていただける病院を目指します。
人としての尊厳を重視した上で専門医療(国
の定める政策医療)に誇りをもち、地域の
皆様が安心して心身ともに癒される医療を
受けていただけるよう全力を尽くします。

CONTENTS

年頭のご挨拶	2
4階病棟の紹介	3
第71回 国立病院総合医学会: ベストロ演賞、ポスター賞を受賞しました	4・5
第12回倉敷地区重症児の在宅医療を 考える会が開催されました	6
生き息さわやかに過ごす会を開催しました	6
健康一番、マラソン奮闘記 (おかやまマラソン2017編)	7
クリスマス聖歌隊による演奏会がありました	7
平成29年度岡山県結核診療連携拠点 病院研修会	8



年頭のご挨拶

国立病院機構 南岡山医療センター 院長
谷 本 安

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当院の運営にあたりましては平素より皆様の格別のご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年4月に院長に就任しましたが、病院経営は厳しく、生き残るためには果たすべき機能をより明確にかつ集約する必要があります。追い打ちをかけるように、6年に1度の医療・介護・障害者福祉のトリプル改定を迎えます。

安倍政権による経済政策には「働き方改革」「生産性革命」「人づくり革命」が謳われておりますが、当院でもこのような改革を進めながら経営改善を図る必要があります。医師の減少の中で、超過勤務を増やすことなくタスクシフティングやシェアリングを上手く行って生産性を向上させなければなりません。幾分その効果は現れてきていますが、さらに働き方改革を進めるためには、例えば主治医制をチーム制にという議論が当院のみならず全国的に行われているようです。しかし、これには患者様や国民の十分な理解が必要で、直ぐに実施に踏み切るというわけにはいかないのが現状です。また、業務の効率化も引き続き図っていく必要がありますが、ICTの推進等には当面お金がかかるのが難点です。

生産性の向上と安全で良質な医療の提供を両立するためには、人材の確保と育成が重要です。当院は神経難病や重症心身障害児（者）の医療といった政策医療を担っておりますが、障害者医療における人材の確保が今後の大きな課題となっております。

昨年の流行語大賞の一つは、「忖度（そんたく）」でした。森友学園問題をきっかけに、本来の「他人の気持ちを推し量る」ことから「政治家らの気持ちに配慮した」というグレーな意味での認識が高まりました。私どもは、本来の「忖度」の意味を大切に、「患者様に寄り添い支える」病院として信頼と満足をいただけるよう取組んでまいりますので、本年もご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



4階病棟 の紹介

4階病棟師長

松岡 芳江

4階病棟は、結核ユニットを有する呼吸器科病棟です。呼吸困難、咳や痰、発熱等の呼吸器症状に悩む患者様の治療をサポートしています。また、慢性呼吸不全の増悪を防ぐための呼吸リハビリにも力を入れています。在宅酸素療法が必要になった場合は、DVDや生き息さわやかBOOKを活用し優しく丁寧に説明しています。また、退院後も訪問に出掛けています。結核ユニットでは突然の隔離生活となってしまった結核患者様の精神的サポートと9か月から1年かかる内服治療に退院後も中断することなく取り組めるよう結核についての学習サポートを地域の保健師と協力して行っています。

今回病棟紹介の機会をいただきましたので、スタッフに病棟の特色をインタビューしたところ、「慢性呼吸不全や誤嚥性肺炎で苦しむ高齢患者様を多職種連携で支え、できるだけ早く苦痛を取り除き、元の生活にもどれるようにチーム一丸となって取り組んでる」、「慢性期の患者様が多く、入退院を繰り返される場合もあるので、患者様ご家族との信頼関係が築け、患者様も希望が言いやすい」、「一般呼吸器と結核でチームに分かれているが協力体制が整っており、スタッフがやさしく働きやすい。」といった、職員のチームワークや患者様やご家族との良好な関係を挙げる声が多く、師長としてとてもうれしく思いました。

まだまだ地域では昔の結核療養所としてのイメージが根強くありますが、「呼吸器疾患なら南岡山医療センターがいいよ。」と言っただけのように専門知識と技術を磨き、患者様ご家族から信頼される、笑顔あふれる病棟にしていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。



ベスト口演賞

薬剤部 伊藤里奈

平成29年度第71回国立病院総合医学会において発表させて頂いた「INHによる末梢神経障害を呈した肺結核の一例」にご評価を頂き、大変感謝しております。

イソニアジドにおける末梢神経障害はよく知られていますが、アメリカ疾病管理センター(MMWR)によれば、頻度は0.2%以下と極めてまれな副作用とされています。結核における薬物治療に携わる機会を頂き3年目となりますが、加療中にイソニアジドによる末梢神経障害と診断された症例は数例程度で、中止に至った症例は本症例が初の経験となります。末梢神経障害は、主訴に頼るところが大きく、医療者間による痺れに対する共通認識を得るのに苦労しました。このことを受け、医療スタッフと連携、継続的に評価・検討を行い、医療者間での確認事項や評価の標準化を図るため、痺れのチェックシートを作成しました。今後は、結核治療において医療者間で使用できる共通ツールを作成し使用することにより、客観的評価ができ、スタッフ間の共通認識が得られることで、副作用の早期発見・予防へと努めていきたいと考えています。

今回、多くの関係者の方々にご指導とご協力を頂き、幸運にもこの成果に恵まれました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。入職して初めて、薬剤師になって初めて、結核という疾患に深くかかわる機会を頂きました。結核患者は多種多様であり、対応するためにも、結核に対する正しい理解と薬物治療に関する正しい知識が必要であると感じています。

この受賞を励みに、隔離病棟で結核と闘っている患者、外来で結核を治療しようと闘っている患者のためにも薬物治療に貢献できるように一層精進して参ります。



第71回 国立病院総合医学会
COI開示

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

はじめに

イソニアジド(以下:INH)による末梢神経障害はよく知られているが、アメリカ疾病管理センター(MMWR)によれば頻度は0.2%以下と極めてまれな副作用とされている

本症例では年齢も若く、通常の対応では治療継続困難となり、対応に苦慮した症例として経験したので報告する

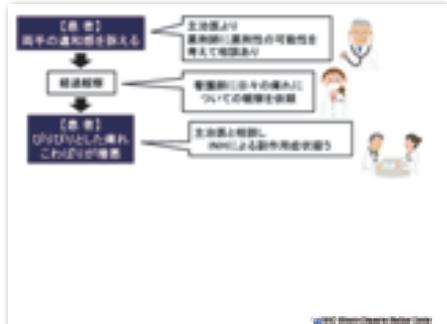
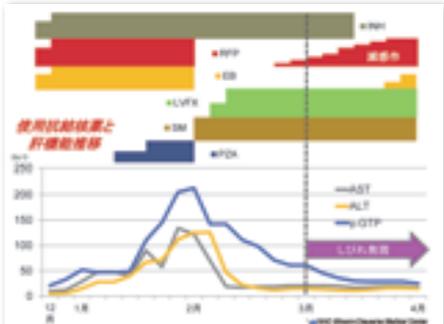
症例:27歳女性

【主訴】咳・痰・発熱
【既往歴】無
【現病歴】2016年10月、発熱・咳嗽あり近医受診し、対症的に加療した。同年12月から再び咳嗽出現し再院受診。その時のX-P、CTにて結核を疑う像が認められ、喀痰塗抹検査で陽性、TB-PCR陽性となり当院紹介受診となる。

【既往歴】無
【常用薬】無
【生活歴】喫煙:無、飲酒:機会飲酒、ADL:自立
【アレルギー】食物:なし、薬剤:なし

入院時検体検査結果

【生化学】	【血算】
CRP 5.83mg/dl	RBC 4.33 × 10 ¹² /μl
T-BIL 0.6mg/dl	Hb 11.4g/dl
AST 108U/l	Ht 34.3%
ALT 88U/l	WBC 8.0 × 10 ³ /μl
LDH 128U/l	PLT 365 × 10 ³ /μl
γ-GTP 218U/l	
Cr 0.87mg/dl	【電解質】
BUN 5mg/dl	Na 130mEq/l
血糖 90mg/dl	K 4.2mEq/l
HbA1c 5.5%	Ca(補) 9.5mg/dl

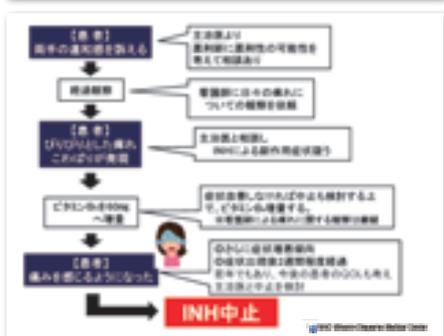


INHによる末梢神経障害発現頻度

INH 一日投与量	発現率	【リスクファクター】
300mg	0%	高齢者、妊婦、糖尿病、アルコール、小児、腎不全、HIV、腎不全
450-600mg	0-1.18%	リスクなし
900mg	92.9%	
15-24mg/kg	44%	

300mg/47kg ⇒ 6.38mg/kg
(常用量中の用量濃度の治療目的の考慮)

リスク因子はないがINHにおける末梢神経障害の発現の可能性が18% あったと考えられる



副作用確認チェック表

末梢神経障害の発現を早期に発見し、適切な対応を行うことが重要です。

客観的に評価することで適切な末梢神経障害の評価が実施できる

考察

- 密に医療スタッフと連携、継続的に評価・検討を行ったことで末梢神経障害による重症化を未然に防ぐことができた
- 共通ツールを作成し、使用することにより客観的評価ができ、スタッフ間の共通認識が得られることで、副作用の早期発見・予防へと努めていきたい

ベスト口演賞、ポスター賞を受賞しました

ポスター賞

演題番号 P2-1P-786 快感情の表出を促すための関わり
講師 スリカ 西野 初月 渡西 由美
南岡山医療センター 看護部

はじめに
患者の感情は医療活動の中心となる要素であり、ケアに繋がります。しかし、感情の表出が促さないと患者の感情が表出されず、ケアの質が低下します。そこで、感情の表出を促すための関わりを提案します。

実践
・感情の表出を促すための関わり
・感情の表出を促すための関わり
・感情の表出を促すための関わり

実践の振り返り
・感情の表出を促すための関わり
・感情の表出を促すための関わり
・感情の表出を促すための関わり

結論
・感情の表出を促すための関わり
・感情の表出を促すための関わり
・感情の表出を促すための関わり

演題番号 P2-1P-772 情緒的不安のみられる利用者への関わりについて
目次 安香、酒井明日美、仁田礼香、安部優子、三宅善紀
独立行政法人南岡山医療センター 療育指導室、看護部

【研究のきっかけ】
・情緒的不安のみられる利用者への関わりについて
・情緒的不安のみられる利用者への関わりについて

【目的】
・情緒的不安のみられる利用者への関わりについて
・情緒的不安のみられる利用者への関わりについて

【実践】
・情緒的不安のみられる利用者への関わりについて
・情緒的不安のみられる利用者への関わりについて

【結論】
・情緒的不安のみられる利用者への関わりについて
・情緒的不安のみられる利用者への関わりについて

演題番号 P1-2A-111 行動面による電気使用量削減～意識を持たせる働きかけ～
田中 貴大 (南岡山医療センター 企画課課長) 上野 萌 (南岡山医療センター 企画課電気士)

以前(病院建て替え時)...
設備の改善による光熱費削減
H24年度→H27年度の年間水道光熱費
122,700千円→96,204千円と
年間3,000万円の削減に成功したが...

H28年度~
・使用量の増(前年比9%増)
→金額では微増(0.1%)で認識が遅れた
・デマンドの超過
・単価の上昇
H27.9...0.27円、H28.9...2.25円、H29.9...0.71円
「金額増加防止・使用量削減」の為に...
設備を改善する取組みに加え
無駄な使用を減らす取組みを行った

H29年度(無駄削減の意識づけ)
4月～電気使用量の院内LANでの掲示
使用量報告+節電知識で関心を持たせる
7月～各部門見回りによるチェック
空調温度や不要な部屋の電気チェック
9月 取組に対するアンケート
取組で節電意識が広がったの折一式・自由回答

結果
・実施後の5月～9月の使用量の合計
→47.678kWh(前年比2.4%の減)金額削減約70万円
・職員の意識について
→「節電意識なかったが」
変わった→30%
・元々意識のある人も6割
・患者周りなどやりすぎでは
という意見もあった

※アンケート回答抜粋
こまめな節電心がけがなくなった
意識を高めるために活動をしてほしい
以前から無駄な使用がなくなった
患者から「優しい、しんじい」(説明を要した)
労働環境を考えるとほしい
患者・実生活の外部に良いイメージを与えないのでは
もっと節電できることがあるのでは
節電がもっとわかりやすいようにしてほしい
エアコンはこまめに消すこととスイッチをOFFにしたほうが

※冬の超過電力対策
・デマンド監視装置から...
冬の冬のエアコン起動後(8:30~9:30)の電力使用が多い
デマンド(最大消費電力)とは
一定期間(30分あたり)の消費電力の平均のうち、
その中で一番高い値→常に消費する電圧と電流

案：タイマー設定
エアコン起動の時間をずらす
例：外来待合は8:00に起動
診察室は8:30に起動
事務部は9:00に起動

節電の取組に対するアンケート
折一式
+任意の記述欄
→理解を得るため言葉使いや負担にならない工夫

演題番号 P2-2P-646 独立病院作業療法士協議会 中国の国グループ OT 部会の活動紹介
～支部制の導入がもたらした効果について～
氏名 片岡理恵、小林理英
所属 南岡山医療センター リハビリテーション科

【OT部会の紹介】
《名称》 独立病院作業療法士協議会 中国の国グループ OT部会
《施設および会員数》 全25施設：作業療法士348名(2017年4月1日現在)
《部会の目的》 ①会員の専門性向上 ②会員間の相互交流

取組みの1つとして「勉強会」を企画

【前体制：2012年～2016年】

年	開催地	開催形式	参加者
2012	広島県 山口県	研修会 座談会	32%
2013	山口県 徳島県	研修会 座談会	39%
2014	広島県 山口県	研修会 座談会	10%

【支部制の導入：2016年】

《支部制》 全1支部
《企画》 多支部 代表者1名、サポーター1名
《実施内容》 ・15分 開会 ・活動報告交流
・支部内会員の意向に基づき企画(アンケート等)
・タイムスケジュールや計画書を事前に配布し運用したことが活動より活性化

【結果】

参加率 100%
満足度 79%
参加率 100%
満足度 79%

【参加者の意向と満足度が得られた要因】

【参加者】 参加者が多い
【満足度】 満足度が高い

【今後の課題】
他院の問題
少人数 集まりにくい
活動内容が単調
作業療法士の質を向上させること
近隣施設でサポートしあう体制を構築

第12回

倉敷地区重症児の在宅医療を考える会が開催されました

特命副院長
重症心身障害児(者)センター長
吉永治美



当院の小児神経科医長井上美智子先生が世話人を務める「倉敷地区重症児の在宅医療を考える会」では、地域で暮らす重症心身障害児・者の生活の質を向上させることを目的に、在宅での医療環境などをはじめとした様々なテーマについて、医療、福祉、教育など多方面の関係者が集まり、情報交換し相互理解を深めてきました。

一方、今年赴任した私、吉永は、昨年まで岡山大学で小児神経科准教授、てんかんセンター副センター長として、主としててんかん診療を専門領域としてまいりました。そこで今回の第12回の会は、日本てんかん学会の共催のもと、てんかんの基礎および、てんかん発作の種類と対処法について、特に学校および通所サービスの現場などで、日常にてんかん発作と遭遇する機会の多い方々を中心に研修する場としたいと考え、11月23日(木)に当院の大会議室で行いました。

当日は井上から、岡山県の小児在宅医療の実態報告、またつくし病棟副看護師長遠部から重症児の在宅ケアのDVDと冊子についてのアンケート調査結果の報告の後、岡山大学病院てんかんセンター・花岡義行先生に、てんかんの発作の種類を含めててんかんの基礎について講演いただきました。

そして、最後に吉永が、あらかじめ患者役の井上とともに撮影したDVDで、てんかん発作を目の前で起こされた場合の、良い対応と悪い対応を会場の皆さんに実際に見ていただきながら解説しました。これが大変臨場感あふれた演技であったと、二人の女優(?)が評判で、会終了後に行ったアンケートでも「わかりやすかった」「これからは慌てずに対処できるような気がする」などの高評価をいただきました。

今回は祝日にもかかわらず、医療職54人、教育関係31人、福祉関係31人、行政10人、本人および家族8名、計143人の参加を得て、改めててんかんに対する社会の関心の高まりを感じました。

これからも在宅医療や、てんかん診療など、私たちが得意とする分野の知識を地域の皆さんに提供する場としてこの会を重ねていきたいと思っております。



生き息さわやかに過ごす会も開催しました

算定病歴係長 白髭 瑞江

平成29年10月21日(土)当院呼吸ケアチームによる生き息さわやかに過ごす会を開催しました。当日は台風の影響もありあいにくの雨でしたが、患者様や地域のケアマネージャーの方をはじめ院内外から計110名の方に参加していただき、盛大に行う事ができました。

この会は、毎年呼吸ケアに関する様々なテーマを掲げて開催していますが、今年度は「地域に向けた在宅呼吸ケア」というテーマで対象を患者様と地域のケアマネージャーの方とに分け二部構成で行いました。

第一部では患者様を対象に、当院の理学療法士と医療ソーシャルワーカーが、それぞれの立場から今日から実践できる呼吸リハビリの方法や地域で使えるサービスなど、すぐに役に立つ内容について講演を行いました。実際に参加された患者様からは、ホームエクササイズを継続したい、制度利用時の申請の大切さがわかった、といった声を聞くことができました。また講演終了後も、多くの患者様が直接当院スタッフや酸素プロバイダーに熱心に質問する姿が見られました。

第二部では、地域のケアマネージャーの方に向けて、当院の4階病棟副看護師長、作業療法士、医療ソーシャルワーカーより、入院中に実施している呼吸ケアについて紹介をさせていただきました。

その後の意見交換会では、地域のケアマネージャーの方との情報交換の機会を得ることができ、さらなる交流を深める必要があると感じました。

呼吸ケアチームとしては、今後も様々なテーマでこの会を行っていき、患者様が住み慣れた地域でよりよく過ごすことができるよう地域の方々と協働していきたいと考えております。



健康一番 マラソン 奮闘記

(おかやまマラソン2017編)

経営企画係長 後山 勝

平成29年11月12日(日)開催されたおかやまマラソンに参加してきました。

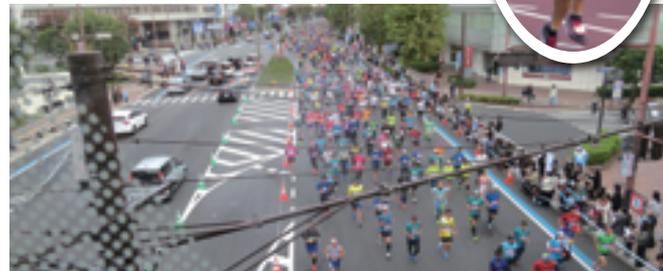
岡山で都市型マラソンが開催されるようになって今年で3回目。毎年4月中旬からエントリーが行われ1万5千人の定員に対して参加応募者数は全国から約2万4千人を超え、参加するにも6月に発表される抽選結果にて「当選したよ〜(^^)/♪」「はずれた〜(>_<)涙」と当選・落選の明暗があるのもランナーにとってはドキドキのひとつです。幸い今年も運良く当選の一報をいただき参戦するに至りました。



「おかやまマラソン」は比較的平坦なコース設定のため、好タイムが出しやすいことからシリアスランナーや、コースのエイドに設置される「ラーメン」「きびだんご」等に代表される豊富な給食等が楽しめるファンラン(楽しむ事)目的でのランナーからも人気があり、抽選の倍率も年々上昇しており、今年は当院スタッフも抽選に泣く者が多かった感じです。

それでも数名のスタッフが今年も当選し、ランナーとしての参加や医療救護等のスタッフとしても参加させていただきました。

当日は、若干肌寒い中でのスタートとなりましたが、風もなく気温も徐々に上昇していき絶好のラン日和となり、記録や自分の限界に挑む者、景観や給食を楽しむ者、仮装ランにて沿道の方々を楽し



ませる者と各々がマラソンを楽しんでいる様子が見てとれ、沿道の方々の声援も途切れる事がなく、学生達の吹奏楽での演奏や、エレキギター片手にランナーのハートを燃え上がらせてくれる親父バンド、大学生の応援団等、たくさんの方々が走るパワーをくれて素直に嬉しくありがたく思えるもので、間違いなく回を重ねる度に応援が素晴らしいものとなっています。

一方走りの方については9・10月とトレイルランレースやウルトラマラソンなどの大会が続き、レース後の体力が弱っている際に風邪をひいてしまい、3週間ほど練習が出来ない日が続き、大会の一週間前にやっとこさ復活! その週4日間で60キロの走り込みにて急いで脚作り。どこまでいけるか調子を見ながらのんびりランで入りましたが、走っているとだんだんと闘争心に灯がついて「まだ、まだ〜」と徐々にペースアップ! 応援の力を借りて、最後まで走りきることができ3時間ちょっとでゴール! レース後は陸上競技上スタジアムにてみんなの応援へ。



当院スタッフもひとり又ひとりとゴールし、全ての市民ランナーがゴールするのを見届け「おかやまマラソン」は幕を閉じました。レース後は仲間等とラーメン、餃子&ビールにて皆が達成感とお腹のどちらも満腹にさせておりました。

おかやまマラソンは本当に良い大会になり全国的にも知名度も上がって参りました。今後もこの地元の素晴らしい大会に参加し続けたいと思うとともに、一人でも多くの方の参加や沿道での声援に足を運んでいただけたらなと感じるしだいです。

【おまけ】12/17(日)山口県の防府読売マラソンに参戦! 気温5℃の小雪が途中舞うなどなかなか厳しいコンディションでしたが、なんと今年も3時間切り達成にてゴール!

今後も「50歳まで、サブ3を維持する!」を目標にトレーニングと健康な身体づくりに励みたいと思います。

クリスマス聖歌隊による演奏会がありました

庶務係長 杉山 寿



12月20日に、岡山医療センター附属岡山看護助産学校の学生が結成した聖歌隊による演奏会が開催され、クリスマス衣装の学生の皆さんがキャンドルライトを持って病棟を訪れて、ハンドベル演奏や合唱を行いました。

クリスマスの定番である“赤鼻のトナカイ”や“きよしこの夜”などの曲目を披露して頂き、入院患者さんだけでなく、病院職員にとっても季節感を感じられる心温まる演奏会となりました。

また演奏終了後に、学生の皆さんが患者さんに「心を込めて作りました」と言葉を添えてクリスマスカードを手渡し下さり、患者さんも非常に喜ばれていて、病院のクリスマス行事としても非常に素晴らしいものになったと思います。

素敵な時間をプレゼントしてくださった岡山看護助産学校の学生並びに教員の皆さん、ありがとうございました。



平成29年度 岡山県 結核診療連携拠点病院研修会

プログラム

日時	平成30年2月8日(木) 18:30~20:30(受付18:00~)
会場	三木記念ホール(岡山県医師会館2階・3階) 岡山市北区駅元町19-2 TEL:086-250-2100
定員	200名

研修テーマ

結核の早期診断と治療完遂を目指して

受付開始	18:00~
●開会の辞	18:30~18:40
独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター 院長 谷本 安 岡山県保健福祉部 健康推進課長 山野井 尚美 岡山県からのお知らせ 「岡山県における結核の現状報告」 岡山県保健福祉部 健康推進課	
●研修 I	18:45~19:10
座長: 岡山県健康づくり財団附属病院 院長 西井 研治 「当院における結核患者および結核菌薬剤耐性の動向」 独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター 診療・業務支援顧問 河田 典子 コメンテーター: 公益財団法人結核予防会研究所 部長 御手洗 聡	
●研修 II	19:10~20:10
座長: 独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター 院長 谷本 安 「最新の結核菌検査と耐性菌の現状について」 公益財団法人結核予防会研究所 部長 御手洗 聡	
●質疑応答	20分程度
●閉会挨拶	20:30
岡山県健康づくり財団附属病院 院長 西井 研治	

※申し込み・問い合わせは、2月1日(木)までに地域医療連携室086-482-3031にご連絡ください。



独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター

〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066
 電話(086)482-1121(代表)
 F A X(086)482-3883
<http://www.sokayama.jp/>

